

「ホーム」に留まるフィリピン人若者たちの「トランスナショナル」な移動——  
知識集約型サービス業のグローバル化と新たな労働力の再編の視点から

所属： 立命館大学大学院 国際関係研究科 博士後期課程

氏名： 李 定恩

1200 字程度で発表内容を記載してください。

本発表は、フィリピンのトランスナショナルな労働市場の複数の職業を歩きわたっているフィリピン人若者たちの職業移動と、それが孕む困難について考察するものである。その考察を通して、新たな資本の移動がつくる知識集約型サービス労働のグローバル化が、今日ホームに留まるフィリピンの若者の労働力を一層巧妙に再編し、外部化している現実を指摘する。

国際移住研究 (International migration studies) において、フィリピンは代表的な労働力の送り出し国として知られている。とりわけ、グローバル社会における再生産労働の空白を補うフィリピン人女性移住者は、現代の国際移住を大きく特徴づける、「移住の女性化」の代名詞でもある (小ヶ谷 2016)。他方、大卒の学歴をもち、専門職に就いた経験のある女性たちが、ケア労働者として海外で働く実態について、「矛盾する階級移動 (contradictory class mobility)」であると指摘された (Pareñas, 2001, pp 3, 150)。

ところが、知識を基盤にする産業の拡大と情報通信技術の発展によって、知識集約的サービスが国境を越えアウトソーシングが可能になると、労働者たちは「ホーム」に留まりながら、新たな労働力分業の遂行が可能になった。とりわけ、近年は、グローバル企業とフィリピン政府の狙いによって、フィリピン人の英語力を媒介にする BPO (Business Process Outsourcing) 産業がフィリピンに次々と誘致されている。先行研究では、フィリピンの大卒の若者たちが海外に行かなくても、これらのモダンなオフィス仕事を通して、中間階層へ移動可能な給与を得ることが可能になったと指摘された (田川 2018)。本発表は、海外資本の移動がフィリピン人の英語力を再編し、外国人の顧客にサービスを提供するフィリピン国内の労働市場を、「トランスナショナルな労働市場」と指すことにする。

本発表は、フィリピンの若者たちが国境を超えた「矛盾する階級移動」から免れながらも、依然ホームで「トランスナショナルな」移動を続けていることを明らかにする。というのは、フィリピン人若者たちは、グローバルな資本とフィリピン政府が、フィリピン人の英語力を再編しながらつくるトランスナショナルな労働市場の複数の職業を歩きわたっているのである。

とりわけ本発表は、フィリピンの経済成長を牽引している BPO 産業のコールセンターのエージェントと、韓国や日本の留学生たちに英語を教える英語講師間の職業移動を事例に取り上げ、トランスナショナルな労働市場の範疇と、若者たちの職業移動の実態を明らかにする。その後、トランスナショナルな労働市場の仕事がさまざまな困難を孕みながら、フィリピン人の若者たちの労働力を再編し、コストを削減する新たな労働力分業のプロジェクトを遂行しようとしていることを指摘する。この事例を通して、ホームにいながらも、技術の発達とそれが促進する資本の移動によって、トランスナショナルに移動し続けられている、現代社会の我々の現実をも垣間見ることができると考える。